

「魅力ある白砂っ子に育てて欲しい」～子供への願いでつながる地域を目指して～

浜田市立白砂公民館

1 白砂地区の概要

白砂地区は日本海に面しており、国道9号線を挟んで海側に2集落、山側に2集落計4集落で成っている。人口279人、高齢化率40.1%（平成31年1月末現在）浜田市三隅町の中で最小の地区である。道の駅『ゆうひパーク三隅』から一望できる日本海はJRの線路と重なる絶景スポットであるため、写真愛好家から人気が高い。また、山側は赤土と潮風に恵まれた風土であり、柿の育成に好ましい土地柄であることから浜田市の特産品“西条柿”の生産地にもなっている。自然豊かな地区であるため、猪や熊等、野生動物にとってエサが豊富にあり、有害鳥獣被害も課題となっている。生活を支える機関が地域には無く、学校や病院、スーパーまでは車やバスで移動している。地区の中間に位置する当館の利用も徒歩で来られる方はほとんどなく、地区住民が気軽に集まりにくい地域でもある。

地区を動かしているのは“白砂まちづくり委員会”であり、主に60歳以上の方が運営している。高齢化が進んでおり、幼児・小学生を持つ家庭は11軒と少ない。地区を持続するためにも若者の参画が必要となっている。

2 事業の趣旨(育成したい人材)

今まで地域と関わりが少なかった若い世代が子ども達への願いをもって、活動に関わることにより地域とつながっていくことを目的とし事業を進めた。

(まちづくり委員会)

高齢化が進む中、今後のまちづくり委員会の中期計画を立てていく上で、子どもの存在はとても大きい。子どもを意識した事業を行うことで白砂地区に住んでいる子ども

達を地区住民が身近な存在に感じ、今後のまちづくり委員会の事業対象を子どもを含んだ事業に展開していく。

(幼児保護者)

得意分野が発揮できる役割を担い、参画することを通して地域デビューのきっかけとする。事業に関わることで運営のノウハウを知り、今後のPTA活動や地域、個人の活動など様々な場所で活躍できる人になる。

(小学生保護者)

白砂っ子倶楽部の運営を自立して推進できるようにする。役員ではない保護者も自分事として捉え積極的になるよう促す。

(白砂地区子供会OB)

自分の子どもが卒業しても地域に無関心にならず、自分たちのできることを探すようになる。

3 具体的な取組内容

(1) 子どもの居場所コーナー

まちづくり委員会主催の行事“地区体育祭”に子どもコーナーを設置して子どもたちの姿を住民にアピールをした。また、保護者同士が顔見知りになるよう声をかけた。

(2) 片栗粉作り

白砂地区中学生と年配の方が片栗粉作りを一緒に行うことで交流を行った。

(3) 親子ヨガ

幼児保護者発案で事業開催。親子でヨガを楽しんだ。ケーブルテレビの取材も入れた。三隅支所市民福祉課からの情報提供や保健師の育児相談も行った。

(4) 白砂っ子親子キャンプ

白砂っ子倶楽部保護者(小学生保護者)の意見をH00P!(浜田親子共育応援プロ

グラム)で聞き取り、白砂っ子親子キャンプで実現させた。

(5) 白砂地区子供会 OB 会

キャンプは子供会を解散した平成 23 年～28 年まで行ってない。平成 29 年度から再びキャンプを始めた現在の白砂っ子倶楽部保護者へ過去の活動内容や思いを伝えるため、キャンプに関わる話を白砂地区子供会 OB から聞き取った。

(6) パネル作り

白砂地区児童と年配の方が昼食作りやパネル作りを通して交流。「こんな白砂っ子に育って欲しい」をテーマに地区住民が書いたメッセージをパネルに貼った。でき上がったパネルは他団体の地区行事、しらすな上映会でお披露目を行った。

(7) しらすな上映会

幼児保護者主導で事業開催。事業企画からチラシ作りや飾りつけ、司会進行など事業運営に関わった。手品、おやつ、DVD 放映など子どもが喜ぶ雰囲気の中で親子交流を行った。白砂地区幼児保護者 8 軒中 6 軒の参加に加え、帰省していた親子、現在の白砂っ子倶楽部会長親子も参加した。



4 評価と成果

(まちづくり委員会)

事業の様子をケーブルテレビで発信したことで、白砂地区の子ども在宅軒数を数字で聞いただけではなく視覚や交流でアピールできた。「白砂地区ってこんなに子どもがいるの？」と反響があった。また、研修発表会では本事業を聞いてもらったことで

「今まで子どもの方に全く意識が向いていなかった。公民館の考えを知らなかった。」と話してもらえた。

(幼児保護者)

保護者同士が顔見知りになり連絡先を交換した。公民館だよりを読んで他の事業に申し込みがあった。小学校入学や白砂地域で暮らす日常の不安を話せる関係になった。

(小学生保護者)

役員ではない保護者がキャンプ以外で活動内容を提案した。積極的に参加する意欲がみられた。

5 今後の課題と見通し

白砂地区を持続していくには、まちづくり委員会と共に人材育成を行っていく。人口が少ない地区でのデメリット（人との距離感が近い：人間関係が悪くなった時の不安・役が重複する負担感）を解消できるよう配慮し、相手が活動しやすいよう心掛けていく。今回関わった幼児保護者も小学生保護者も独立して活動するには至っていない。地域デビューのきっかけ作りとデビュー後の支援を今後も続けていく。そしてまちづくり委員会には女性団体が少ない。女性が地域に出るきっかけや理由をつくる。団体での活動を通してリーダー育成を行い地域を動かしていく。今回は地区内で活動を終えたので、今後は活動視野を広げて多様な人を巻き込みながら白砂地区住民の意識啓発に繋げていきたい。具体的には、

- ①地域デビューのきっかけをまちづくり委員会の事業を通して行う
- ②役員や参加者が安心して地域活動に出られるような環境作り（勉強会・情報提供・金銭的支援など）
- ③女性団体の起ち上げとリーダー育成
“住んで良かった住み続けたい白砂地域”を目指して笑顔あふれる地域になるよう各年代の大人の意識を変えていきたい。

(文責：主事 佐々木瑞恵)